

令和3年度宮城高等歯科衛生士学院学校関係者評価概要報告

I 学校運営方針

宮城高等歯科衛生士学院の教育理念である、高度な専門能力・自ら課題を創造する・思いやりと社会性を持ったヘルスプロモーションの担い手として医療機関・施設・行政において、必要とされる各業務に適応できる人材を育成する。全国初の3年制を導入して20年を迎え、当初の目標を達成できた。今後さらに充実させ、新たなる改革と発展を目指し、教職員の意識改革・自己研鑽に努める。加えて、高度な視点から多様化した歯科保健医療を捉えた質の高い歯科衛生士として国民の新たなニーズに応じてまいります。

II 重点目標

- (1) 基本的な医学知識を備えた行動
- (2) 生涯研修と自己啓発の意識
- (3) 歯科衛生ケアプロセスの実践
- (4) 対人サービスと社会性、コミュニケーション
- (5) 研究活動の奨励、海外研修制度

III 学校関係者評価委員会の概要

<第1回>

- | | |
|---------|------------------------|
| (1) 日時 | 令和3年7月27日(火) 午後6時～7時 |
| (2) 場所 | 宮城県歯科医師会館 4階 会議室 |
| (3) 出席者 | 学校関係者評価委員<順不同>・・・5名 |
| | 児玉弘子 (臨床実習協力施設代表) |
| | 五十嵐 薫 (連携校・実習協力校代表) 欠席 |
| | 人見早苗 (業界代表) |
| | 瀬戸克而 (地域住民代表) 欠席 |
| | 増澤 優 (卒業生代表) 欠席 |
| | 本学院 |
| | 吉田直人 (学院長) |
| | 上原 忍 (副学院長) |
| | 枝松淳二 (本会理事者) |
| | 角田 哲 (教務部長) |

庄 司 伸 樹 (副教務部長)
三 浦 啓 伸 (副教務部長)
佐 藤 陽 子 (教務主任)
蛇 石 宣 重 (事務長)

(4) 内 容

① 報告

- ア 令和2年度「学校評価」事業の経過について
- イ 令和3年度の主な学校行事について

④ 協議

- ア 令和2年度「自己評価」並びに「学校関係者評価」について
- イ 令和3年度「学校評価」事業日程(案)について

(5) 主な質疑応答・

- 委 員：コロナ禍での、教員の人材確保はどのようにしているのか。
- 学 院：ハローワークにて募集は継続している。また、一度離職した歯科衛生士に対して復職支援を宮城県歯科医師会と共に行っている。
- 学 院：教員の人材の確保について、看護師はどうしているのか教えていただきたい。
- 委 員：指導者の希望者には、自社内の教育機関で養成を行い、実務を経験させて採用している。
- 委 員：卒業生の現状把握とアンケートは、どのようになっているのか。
- 学 院：卒業生の現状把握は、卒業後1年6ヶ月経過時点でアンケートを卒業生と卒業時就職先に実施している。その回答率は卒業生が50%弱、勤務先が70%となっている。卒業生に関しては、実家にアンケートを送付しているが、卒業後の住所変更もあり回答率が低くなっている。
- 委 員：卒業生の回答率は低いというより、平均的である。回答が記名式であれば高いのではないか。
- 学 院：今後は、卒業生の回答率向上を目指してインターネットを利用した回答方法を準備している。
- 委 員：追跡アンケートの過去の資料を会議の資料として開示いただければありがたい。歴史ある学院なので、様々な意見があり貴重な資料であるのではないか。
- 学 院：今後検討したい。
- 委 員：コロナ禍で臨地・臨床実習はどうしているのか。ワクチンの接種状況により、受入れ状況に変化はないのか。自分の施設では、ワクチン接種を受けていれば、学院では、十数名という単位ではなく、5名程度に分割できれば受け入れの可能性がある
- 学 院：会立の学校のため、会員の診療所が協力して実習を受け入れていただ

いている。ワクチン接種による受け入れ条件が緩和されれば積極的に
対応を検討したい。

委員：学院でおこなっている、摂食・咀嚼・嚥下指導を受けた高齢者がラー
メンを食べることができるようになり喜んでいる。これからもよろし
くお願いしたい。

学院：本学院で行っている学修が実際に現場で役立っていることは、教員、
学生も励みになる。今後も健康維持に貢献できる知識、技術を修得、
指導していく。